



# みんなの力を1つにして、思い出に残る運動会に!

白水台地の陽光「さん」

保護者や地域の皆様には、いろいろとご心配をおかけしておりますが、10月3日(土)の運動会に向けて、いよいよ動き出しました。運動会は、子どもたちもとても楽しみにしている行事の1つで、例年ですとたくさんのご来賓や地域の皆様、そしてご家族の皆様の応援の下、走ったり力を競ったり、また演技をしたりなど多くの見せ場があります。しかしながら、今年の運動会はコロナ渦の中で、種目の変更、参観者の制限等を行うこととなります。物足りない側面はあるかと思いますが、子どもたちにとりましては、今年の運動会は一生に一度の運動会ですので精一杯の走りや演技をすることだと思います。

9月14日(月)には、4・5・6年生合同の体育が体育館であっていきまして、5・6年生が、初めて踊る4年生に「よさこいソーラン」を見せていました。5・6年生は久しぶりの踊りで、まだ未完成でしたが、体に染みこまれた踊りのスタイルは変わりなく見事に踊りきっていました。見ていた4年生は、真剣な眼差しで見入っていて、期待と不安を膨らませていたように思います。いずれにせよ、来週から本格的に運動会の練習が始まります。5・6年生は昨年以上の演技を目指して、4年生は5・6年生の迫力ある演技に追いつこうと熱がこもってくると思います。

このようなことから言えることは、今年の運動会は、種目が少なくなっている分、1つ1つの走りや演技には、昨年以上の思いや力が込められていると思います。また、練習期間が短く内容的にも少ないですが、この運動会を通じて子どもたちはいろいろな力を身につけて

いくことだと思います。成長していく子どもたちの姿が楽しみです。



## 「本の寄贈がありました」

校区にお住まいの、田島様(熊本市立千原台高校の校長先生をされていきました)から本の寄贈がありました。田島さんの子どもの時の思い出を書かれた直筆の本で、題名は、「外遊びの日々」ーいたずら昭和っ子ーです。3冊寄贈していただきましたので、図書室においています。田島様の少年時代は、現在の生活とはまったく違う様子で、遊びもまったく違っていました。その当時でしか味わえない楽しみや、逆に困難さが本の中にちりばめられているようです。

ご家庭で子どもさんと一緒に読まれても楽しいかと思えます。



ここには日本の、子どもの故里がある。山が 川が 学校が 家族が 遊びが 仲間が 自然が 暮らしが 愛が よろこびが きずなが そして、永遠の時間が... 本当の私は、少年の僕で、 作者がさがし続けた真実がこの本の中にある。 むぎた雅楽(自由作家)

